

潰瘍性大腸炎の一例

医療法人社団宏洋会 清水内科外科医院

清水 雅行

症例

患者：20歳 男性 浪人生

主訴：腹痛・下痢・血便・時に下血

現病歴：進学校に入学し、高2から医学部を目指して受験勉強をしていたが、現在2浪中。親からは3浪はダメと言われ今回で決めるように言われている。文化部に所属し運動は体育以外にしていなかった。高3のころから腹痛と下痢が起こるようになったが、自然に軽快していた。夏季講習中、冷房が効き過ぎた教室で長時間授業を受けていたが、腹痛や下痢が頻回となった。夏季終了後の模擬試験の成績が思わしくなく、志望校を医学部以外も検討するよう、予備校や両親から勧められた。その頃より血便が出現し、時に下血になったため、消化器内科受診。検査の結果、潰瘍性大腸炎と診断された。ステロイド剤・止血剤を処方され、下血はなくなったが血便は持続していた。親戚の勧めで当院受診。

四診

望診：顔面蒼白、痩せ気味

問診：腹痛、朝に強い。下痢や泥状便 3～8 回/日。頻回に血便がある。腹脹軽度あり、ガスも多い。お腹を温めると心地よい。不安・緊張がある。寝つきが悪い。浮動性めまい・立ちくらみ・口苦・口乾あり。

聞診：腹鳴あり

脈診：弦細 やや数

舌診：舌辺紅 苔薄白 舌下静脈怒張なし

西洋医学的診断

病名：潰瘍性大腸炎・軽度貧血

治療：ペンタサ・プレドニン内服

出血が多いときアドナ・トランサミン追加。
その後ペンタサが出荷調整となったため、
プレドニン内服のみ。

病因病機

患者は受験勉強の精神的なストレスから肝鬱気滞を起こし、肝気横逆して脾の運化機能を犯し、腹痛・下痢を生じた。肝鬱犯脾が持続することで脾気虚に進み、脾不統血による血便・下血を来した。

病因病機

腹痛、下痢・泥状便 3～8 回／日

→ 脾気虚弱・運化失常

元々脾虚の可能性もあるが、3 年以上に及ぶ肝鬱犯脾が脾虚をさらに助長した。

冷房で長時間からだを冷やした・お腹を温めると気持ちいい

→ 脾陽虚

脾気虚の増悪に加え、寒邪により脾の陽気が傷られた
腹脹軽度・ガスが多い

→ 肝鬱気滞

不安・緊張・寝付きが悪い

→ 肝鬱気滞・心神擾乱

病因病機

顔面蒼白・痩せ気味

→ 脾気虚・脾陽虚・気血両虚

めまい・立ちくらみ

→ 脾気虚・脾不昇清、脾不統血による血虚

脈弦細やや数

弦 → 肝鬱

細やや数 → 脾虚・気血両虚

肝鬱脾虚

舌辺紅 → 肝鬱化火

腹鳴 → 気滯

弁証論治

弁証：肝鬱犯脾・脾氣虛弱・脾不統血

治則：疏肝健脾・益氣止血

方劑：四逆散合歸脾湯合赤石脂湯加減

処方(g)：

黃耆15、人參 6、柴胡 6、枳實 6、當歸6、芍藥 6、
白朮 6、陳皮 6、乾姜 6、酸棗仁6、遠志6、龍眼肉
6、甘草 6、赤石脂10、仙鶴草10、田七末 3

経過

- 2 週後 下血・血便が消失したが下痢はまだある。便回数もあまり変わらず。
- 4 週後 下痢が大分落ち着き軟便になり、1 日 3 回程度になった。プレドニンが中止となった。
- 8 週後 時に少し下痢する程度。勉強に大分集中できるようになった。